

盛地申5号「電気部門の改革2022」に関する申し入れ交渉⑩

【電気部門の新たな新幹線体制の確立】

38. 今施策までの成果と課題を明らかにすること。また、新幹線を専門的にメンテナンスする組織とした根拠を明らかにすること。

回答

新幹線はこの30年間で5方面へネットワークが構築され、320km/hへの速度の向上やシステム化が図られてきた。今後更なる高速化やシステム化等、高度な技術力が要求されるなか、安全性や技術レベルの向上を図るとともに、諸課題を迅速かつ効果的に解決していくため、新幹線を専門的にメンテナンスし維持管理できる体制を構築していく。

【主な確認事項】

- ・在来は系統のプロ、新幹線は系統を融合し新幹線のプロとなるがプロを育成するという考え方は同じである。
- ・助勢など在线との連携の考え方はこれまでと同じ。盛岡支社として特状を訴えていくことを確認。

39. 電力及び信通の技術センター及び各メンテナンスセンターの業務内容、体制、標準数及び境界キロ程を明らかにすること。また、電力と信通の境界を統一とすること。

回答

新たな新幹線組織については、新幹線統括本部等で検討することとなる。

【主な確認事項】

- ・信通の境界変更は、一ノ関メセは古川メセが無くなることによるもの、盛岡メセと八戸メセの境界変更は盛岡が拠点メセ、八戸メセの距離が長いことによるバランスをとるための変更。
- ・盛岡は拠点メセのため副所長配置と技セの企画の一部業務を担うグループ配置予定。

40. 各種システム等の取扱いと改修時期・内容を明らかにすること。

回答

設備管理システム等の改修は行っていくこととなる。

【主な議論】

電力…設備管理システム（財産区分の改修を想定）（2019年度）

信通…設備管理システム（2019年度）、積算システムを新幹線に対応した形を検討している。

41. 変電業務について、具体的変更内容を明らかにすること。また、直外区分が変更になった根拠を明らかにすること。

回答

検査業務等はメンテナンスセンター、工事業務等は技術センターでの実施を基本とする予定である。

直外区分の変更予定については、電路及び変電機器に精通した新幹線総合技術者育成の観点から実施する予定である。

【主な確認事項】

- ・現在の体制は青森メセがある為、検査業務、工事監督業務も技セ・メセでやっているが青森メセの変電が在来のみとなる為新幹線部分については一律の体制ができるということによるもの。
- ・異常時に影響が大きい重要な設備であること、新幹線総合技術者育成から直外区分を変更した。